

令和5年度第2回世田谷区立図書館運営協議会

日 時：令和5年10月25日（水）午後6時29分～午後8時33分

場 所：教育会館3階大会議室「ぎんが」

出席者：委員（13名）

【学識経験者】糸賀委員（会長）、石原委員

【公募区民】登坂委員、浜田委員、松田委員、宮岸委員

【社会教育関係者】佐藤委員

【教育機関関係者】豊泉委員

【図書館活動団体関係者】稲葉委員、安富委員

【図書館関連事業関係者】郡司委員

【世田谷区立小中学校長】前田委員

【区職員】知久委員

事務局（3名）

地域図書館館長（7名）

世田谷図書館長、玉川台図書館長、烏山図書館長、深沢図書館長、桜丘図書館長、上北沢図書館長、鎌田図書館長

次 第：

- 1 第3次世田谷区立図書館ビジョン（素案）について
- 2 各館取組みシートに基づく評価・検証について
- 3 その他（事務連絡）

午後 6 時 29 分開会

○会長 皆さん、こんばんは。本日出席予定の方が全てそろいましたので、会議を始めさせていただきますと思います。

令和 5 年度の第 2 回世田谷区立図書館運営協議会ということになります。

本日の出席は 13 名、3 名は欠席と伺っております。

本協議会の会議は公開でして、速記者が入っており、会議録として資料を含めてホームページで公開されます。

また、本日も傍聴の方が数名いらっしゃいますが、何名の方が傍聴をされているのか、事務局から御報告をお願いします。

○事務局 本日傍聴の方は 4 名、出席されています。

○会長 ということでございます。

本日は、事前に事務局のほうからお知らせがありましたように、世田谷区立図書館の地域館の評価・検証ということになりますので、15 館の地域図書館のうち、本日 8 館について取り上げる予定ですが、地域図書館の館長で本日出席可能となりました 7 名の方がこの部屋にお越しいただいております。

事務局から地域館の館長について御紹介ください。

(紹介省略)

○会長 ありがとうございます。本日取り上げる 8 館のうちの 7 館の館長にこの場に来ていただいたということになります。

また、本日は、前回御欠席されました中学校長の委員が出席されておりますので、最初に手短に自己紹介をお願いいたします。

(自己紹介省略)

○会長 どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日は時間も限られており、なおかつ取り上げる図書館もやや多いということで、早速お手元の議事次第に沿って議事を進めてまいります。

初めに、1、第 3 次世田谷区立図書館ビジョン（素案）について、これにつきまして資料に基づいて事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 どうぞよろしくお願いいたします。

第3次図書館ビジョンの素案に関する資料としては資料1から3でございます。資料1は概要版をつけさせていただきまして、資料2が本体になっております。資料3のほうがこの協議会から出た意見をどういった箇所に反映したかという一覧になってございます。図書館ビジョンの素案に関しては、現在、意見募集のほうが終了しまして、そちらのほうを取りまとめしているという状況でございます。今後、案にまとめて、区のほうでも意思決定をした上で、改めて協議会のほうでもお示ししていければと思っています。

時間もないので、簡単に御説明させていただきます。資料3を御覧ください。協議会のほうで出た意見について、どういった箇所に反映しているかということで一覧に落とし込んでおります。ストレートにそのまま載せられていない箇所もあるかもしれませんが、ほとんどの御意見については、基本的には第3次図書館ビジョン素案のほうには記載をさせていただいております。

1番の項目について、資料の選書基準についてというところにつきましても、こちらは15ページの基本方針1のほうに、コレクションの構築を目指すことについて、その考え方や基準をホームページで公表していきますといった形で掲載をさせていただいています。主なものとしましては、多くの意見が出ました中高生の記載が足りないのではないかとこのところにつきましても、基本方針2のほうに、項目等を含めて、中高生世代という形で掲載をさせていただいています。また、郷土資料館等との連携についてという5番のところについても、こういった連携もしっかりやっていくべきだということで基本方針3のほうに記載をさせていただいている状況です。

一覧の裏面のほうを御覧いただきますと、番号6、7、8、9と、職員のスキル等について、中央図書館のマネジメント機能について、指定管理者制度について、また評価方法についてといったところについては、基本方針6でしっかり記載をさせていただいている状況でございます。

報告は以上でございます。

○会長 ありがとうございます。この場に出された意見についても何らかの形で案のほうに反映されているようでございます。これでいいのではないかと考えますが、この第3次のビジョンの案につきまして何か御意見等はございますか。

これだけ反映されれば、私もいいだろうと思います。ありがとうございます。

それでは、続きまして、各館の評価・検証にやや時間を割いて議論をしたいと思いますので、早速、議事の2番目に移らせていただきます。各館取組みシートに基づく評価・検証についてということになります。

まず、進め方なんですけれども、今日8館を資料の順番で取り上げていくんですが、2館ずつ説明を受けまして、それについて質疑、それからその次の2館ということで、8つの図書館を4つのグループに分けて2館ずつ進めていくことで時間の効率化を図りたいと考えております。

また、前回の協議会で皆さんから出た意見を踏まえて取組みシート自体を若干修正しております。そのあたりの修正点、それから各館の取組みシートについての説明を事務局からお願いしたいと存じます。

まずは、最初に取り上げる梅丘図書館と世田谷図書館についての説明をお願いいたします。

○事務局 最初に、委員の皆様におわびを申し上げたいと思います。前回の運営協議会で、各館の取組を評価・検証するに当たっては、第2次図書館ビジョンの基本方針1から6、それぞれについて表計算でマトリックス的に目標と実績と自己評価をまとめていく方向で検討するとお話をさせていただきました。具体的に作って見たんですが、しかしながら、その後、地域図書館の令和4年度に掲げていた目標を再度確認したところ、図書館ビジョンの基本方針ごとには目標を立てておらず、実際の記載と自己評価を含めて一覧にまとめようとしても、空欄ばかりになってしまう状態でした。会長にも御相談させていただき、このように取組みシートにまとめさせていただいております。中央図書館として、計画の進行管理ができておらず、誠に申し訳ありませんでした。令和6年度に各館の目標を設定する際は、今回の各館の評価・検証の御意見や新たな第3次図書館ビジョンを踏まえていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

では、具体的にシートのほうの御説明をいたします。

○事務局 それでは、シートのほうを御説明させていただきます。資料4を御覧ください。1ページ目が最初の梅丘図書館になっております。こちらの説明に入る前に、前回の協議会で皆様から出た意見で反映している箇所と、また反映できなかった箇所もございます。簡単に御説明いたします。特に図書室、図書館カウンターについてもぜひ取り上げて

ほしいという御意見がございました。先ほどの御説明の中でも令和4年度の当初、各館で取り上げていた目標なのですが、こちらの人事考課の関係の中で立てていた目標を引き合いに出しております、図書館カウンターや図書室ごとでは、そういった形で目標を設定しておりませんでした。今回は、申し訳ございませんが、地域図書館と中央図書館の16館について取上げをさせていただきたいと考えております。

また、目標を立てるに当たっては課題があったほうがいいのではないかとこのところ、後ほどシートのほうでも御説明いたしますが、運営方針というものを最初に掲げた上で、課題と、それでどう取り組んだのかというところの目標を記載させていただいております。また、いろいろ特色が地域ごとにあるのではないかとこのところ、そういったものを各館ごとに自由に記載していくのがいいのではないかとこのところ、御意見もございましたので、こういった形で、各館ごとにシートを作らせていただきまして、また、今回、資料5として、地域図書館の特色一覧というのを参考にさせていただければということでつけさせていただいております。こういった立地であったりとか、どんな環境で施設を運営しているのかというところが分かりやすくなるようにと思ひまして、作成させていただいております。

また、資料6は、令和3年度と令和4年度の貸出数であったり、実績数値が見比べられるような一覧を作らせていただいております。資料7につきましては、どの図書館が区内のどこにあるかという全体図が分かるようなものを参考につけさせていただきました。

そうしましたら、資料4の1ページ目、梅丘図書館から説明させていただきます。時間の関係もございまして、なるべく駆け足に御説明させていただきますが、後ほどまた分からない点がございましたら、御質問いただければと思います。まず、1番の梅丘図書館ですが、こちらは、運営体制としまして一部業務委託ということで、窓口を民間事業者のほうに委託をしている館でございます。

令和4年度の運営方針としましては、①の「安全で快適な居心地の良い図書館づくり」、②「地域と連携した魅力ある図書館づくり」という形で、こちらの下のところを見ていただくと、課題として、施設の老朽化がございまして、改築工事までの間、図書館の安全管理を徹底する必要がある。利用者にとって快適で居心地のよい空間が必要であるといったことが記載されています。目標としましては、施設の修繕、それから災害など不測の事態に適切に対応できるようにする。日々の運営状況をチェックし、事務改善に努める。また、居心地のよい図書館となるよう、新たなサービスの取組を検討するといったこ

とが書かれています。

②の「地域と連携した魅力ある図書館づくり」に関しては、課題として、「福祉のまち梅丘」という地域でございまして、魅力ある図書館づくりのために関係機関等と連携して地域特性を生かした事業等の実施を図っていく必要がある。目標としましては、区民活動団体や関係機関、地域資源との連携を密にしていくというところを掲げています。

その下に、今回、取組の実績ということで書かせていただきました。取組実績に関しましては、定量的な指標ですとか、定性的な指標としてこういったアンケート調査の結果というところを掲げさせていただいています。今回、来館者アンケートから、①であれば、図書館内の居心地に関する満足度ということで令和3年度と令和4年度でどう数字が変わったのか、その他、落ち着いて読書や勉強、考えることができたとか、図書館職員の接遇といったところを書かせていただいています。

また、その下のところには、こちらの梅丘図書館が令和元年度から民間事業者の一部委託が入って開館時間等が延長になっているので、そういったところの満足度が、一応比べる意味では平成30年のほうが分かりやすいのかなというところで、平成30年と令和4年の数字を比較しています。そちらの実績につきましては記載のとおりでございますので、説明は割愛させていただきます。

次のページの②のほうには、おはなし会などの実績や、布絵本製作ボランティアグループが作成する布絵本を区内で唯一所蔵、貸出しを行っており、利用者からは大変好評ということで実績のほうを書かせていただいています。全体として、令和3年度から令和4年度という、令和3年度が新型コロナウイルスの関係もあってなかなか事業が実施できなかった、令和4年度はそれでも少しできるようになったという状況がございました。

2ページ目の右下のほうですが、こちらが自己評価ということで記載させていただいています。①のほうでいうと、来館者アンケート、落ち着いて読書や勉強、考え事ができたという項目では、区内の図書館としては高い数字であった。開館日、開館時間が延長されたことや、閲覧席数が地域図書館として最多、中高生世代から大人まで様々な用途で利用していただいたということが考えられる。また、改築後についても、今現状以上の閲覧席数を維持し、飲食できる空間や近隣の大学等と連携して中高生世代を対象とした学習支援等の交流イベントを検討し、多世代で滞在、交流できる居心地のよい図書館づくりに取り組んでいくという自己評価になっています。

②のほうは、「福祉のまち 梅丘」を踏まえ、子育て家庭を対象にしたおはなし会を回

数多く実施することができた。ただ、課題として新型コロナウイルスもあったので、障害者や高齢者等を対象にした事業の実施が不十分であった。また、うめとぴあという近隣施設や羽根木公園内にあるプレーパークとの連携、様々な地域連携事業や資料の収集展開を連携してやっていくことが今後も魅力ある図書館につながるだろうという自己分析をしております。

作りとしましては、その後3ページのほうに施設の状況を記載したものを掲載しております。こういったところも踏まえて、後ほどまた御意見をいただければと考えております。

次に、世田谷図書館、4ページのほうに行かせていただきます。こちらの世田谷図書館につきましても、一部業務委託、民間事業者が窓口業務を運営する形での運営になってございます。

運営方針としましては、「魅力的な環境づくり」、それから「地域や他機関と連携した図書館づくり」となっております。

課題につきましては、①のほうは、館内全体の見通しがよくなく、奥まった場所の一般書の書架群や企画展などが分かりにくい。また、その目標としては、一般書架の企画展示を工夫して配置・演出する。メリハリのある玄関・館内の装飾・表示などを施し、立ち入りやすい雰囲気をつくる。

②のほうでは、乳幼児健診会場と隣接している立地を生かし、行事運営、地元商店街等の地域連携が課題だと。目標に関しては、乳幼児向け行事への参加促進、コロナ明けの地域行事への参加復帰といったことが記載されています。

その下、実績としましては、①のほうでは、テーマ展示やパスファインダーの作成、表示物等の工夫などがございました。

②のほうでは、乳幼児向け行事への参加の促進ですとか、福祉作業所が作っている自主生産品の販売や、地域の商店街が行う幕末維新まつりへの参加といったことが掲げられています。

自己評価としまして、①「魅力的な環境づくり」としては、利用者の目線に立った環境づくりの改善においては、セルフプランニングだけでは限界がある。今後は他館の好事例を研究し、利用者や学識経験者からの意見を仰ぐなどして、利用者参加型を視野に入れながら改善を図る。

②では、地域の各チャンネルとのパートナーシップ形成においては力不足は否めない。

各企画について、経年ごとの参加の輪が広がる成熟過程を伴うプランニングが特に求められる。所蔵資料の収集、構成にもテーマ性をより反映させるべきだという分析をさせていただきます。

説明は以上になります。

○会長 ありがとうございます。それでは、この両館、梅丘図書館と世田谷図書館の自己評価につきまして、質問や御意見があればお出しいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 説明ありがとうございます。2つあるんですけども、順番に確認、質問させていただきます。

まず、中身に入る前に、改めまして事務局の方々と、この構成というか、構造についてまず意見交換したいなと思いました。改めて中身を見まして、ちょっと私のほうで感じたのが、いかにビジョンと連動して、構造的にこの取組みシートというのを設計していくべきかというところを考えてみましたというところになります。自分の中での理解なんですけれども、この会議が運営の協議会ということもあるので、取組みシートというのは運営の点検をするシートなのかなと思いました。つまりP D C AのCであったり、次のAに移るところかなと思います。そうしたときに、Pというのは計画であります。計画は、まず1つはビジョンというものがありますといったときに、この計画のビジョンの方針が1から6まであるわけなんです、この取組みシートの中身を見ると、やっぱり各館とも方針の中の3番、「地域の特徴を活かし人々がつながる図書館」、つまり地域についての方針について各館ともやっぱり取組みシートに書いているわけなんです。逆に言うと、方針の3以外の1、2、4、5、6については、どちらかという、事務局というか中央が統制をかけて、全体に対してレベルアップをさせていくという、世田谷区として全体をどう持ち上げていくかというのが1、2、4、5、6であり、3については、各館の特徴を生かしてどう各館が頑張っていくかという、大きく2つすみ分けができるのかなと思いました。

ちょっと話が長くなってしまってすみません。なので、私は考えたんですけども、今後、取組みシートを運営するに当たりまして2つの柱があるかなと思います。1つは、中央図書館から各館にお願いするもの、1、2、4、5、6については、こうやっていきま

しょうとまず働きかけて、全体を底上げする方針というものがトップダウンで落とされるべきものであり、それに対して各館は、年度末に中央図書館からの支援が足りないだとか、こうしてほしいだとか、要望を上げていく場というのがまず1つの柱としてあるかなと。もう1個の柱は、方針の3については、各館が地域の特性を生かして、どこに課題があり、どこに取り組んで、どこが問題点で、次年度どうやっていくのかという、そのところを各館の特徴として考える、こういう立てつけがあると、年度ごとにPDCAが回り、かつビジョンと毎年のチェックというのが連動していくのかなと思いました。まず1点、構造の確認をさせてください。

○会長 ありがとうございます。そこらあたりを含めて、今後、このPDCAサイクルの在り方について見直しをしていく、これは当然、今回初めてなので、いろいろと不備があるんだろうと思います。

ちょっと確認なんですが、委員が言われた基本方針の3だけは別という理解でよろしいんですか。ちょっとそこがよく分からなかった。そこを含めて、区のほうで今の御指摘に対する見解をお聞かせください。基本方針3、暮らしや仕事に役立つ図書館ですよ。それを言われているんですよ。3て言われました。あと1、2、4、5、6は別だと。

○事務局 委員のほうでは、今回の第3次図書館ビジョンの素案のほうを見ていただいて、今後ということでしょうか。

○委員 今後の話で。

○会長 でも、この評価は第2次図書館ビジョンを評価していますが。

○委員 第2次で評価しているんですけども、今回初めてだったわけじゃないですか。これをテンプレートとして来年度やっていく際には何かしらぶれるんじゃないかなというところで、今……。

○会長 分かりました。第3次図書館ビジョンは何年スタートですか。

○事務局 来年の令和6年度です。

○会長 そうすると、実際に評価をやるのは8年度あたりになるんだと思いますが、そこらあたりを含めて今の御指摘に対して、ちょっと説明なり見解をお聞かせください。

○事務局 今、委員おっしゃっていただいた方向で検討していきたいと思いますが、今回は冒頭で御説明したとおり、第2次図書館ビジョンも同じような構造でやろうと思ったら、意外と埋まらなかった。次回の第3次図書館ビジョンについて言うと、まだこれからなので、これを目標に、課題の洗い出しや計画をしてくださいというのはこれから言えることなので、できるだけ第3次図書館ビジョンのひな形に入っていくような方向で指示を出したいと思っております。ただ、会長がおっしゃったとおり、各館の評価が令和8年度ぐらいになってしまうので、それを生かされていくのはちょっと時間がかかるかもしれないと思っております。

○会長 ありがとうございます。いずれにしましても、この運営協議会の今後の場で、第3次図書館ビジョンに合わせた評価をやっていく場合には、今、委員御指摘のような立てつけに評価シートそのものを変えていく、修正していく必要があるんだろうと思います。

もう1点、委員が言われた点についてはいかがですか。

○委員 もう1点は、中身の話をさせてください。特に世田谷でしたっけ、地域連携のところ、力不足もというような表現も書かれていたかなと思います。ほかのところもそうなんですけれども、繰り返しですけれども、評価シートにどの図書館も結構地域とどう連携していくかというところで、トピックとして挙がっているかなと思っています。これは、私なりの解釈ですけれども、毎年課題で上がり、毎年来年度頑張ろうと思って、また、やっぱり難しかったねというところで、具体案はどういう形でつくっていくのかなというところがちょっと気になりました。

例えばですけれども、これはやっぱり縦割りの組織であるがゆえに、隣のところとの連携は、例えば世田谷美術館と連携を取り組まれているところもあり、あとは地域によっては近くにそういう施設がありながら連携ができていないところがあり、個人の裁量というか、各館の取組の裁量に委ねられちゃっているというところがあるのかなと思ったとき

に、例えば教育委員会とか、そういうところが音頭を取って、表現が悪いですけども、区内の施設のマッチングイベントみたいな、その横の連携をやっぱり誰かが仕掛けてつなげてあげないと、地域館で自分たちで頑張ってくださいと言っても、地域の特徴を生かそうと思ってもなかなか実現しないんだろなというところが、これの2つを読んで感じたところで、多分この後も同じような課題が出てくるのかなと思いましたので、この課題をどう具体的に次年度に解決していくのか、そこのアクションをどうしていくのかなというところがちょっと気になったところです。

○会長 ありがとうございます。来年度以降のアクションに関していかがですか。

○事務局 事務局から回答いたします。基本的には地域館ごとにその地元とのつながりにかなり濃淡が正直ございますので、こちらから特に指示をしなくても地元とつながっている図書館もございます。一方で、委員おっしゃったように、地元のところとの関わりが薄いところであるとか、イベントを仕切れないところというのもありますから、それに対しては中央図書館のほうから、こういう事例でイベントをやったとかという情報発信は地域館に向けてやっております。また、少し大がかりなイベントについては、中央図書館がお手伝いはしますが、実際には、例えば今年させていただいた「点字であそぼう」というのを桜丘図書館でやらせていただいたんですけれども、中央図書館ほか、近く地域館の職員が手伝いに行って実施をいたしました。ですから、地域図書館単独だけでやって、お任せというつもりではなく、中央図書館全体としてもバックアップをしたりとか、お手伝いをしたりとか、そういった方法も取っていきたいと思っております。

○会長 ありがとうございます。この評価に基づいて具体的に、例えば地域の課題とどう結びついていくのか、地域のまちづくりとどう図書館を結びつけていくのか、これはこの評価に基づいて今後のアクションとして考えていくことになろうかと思えます。

一方で、今回取り上げるのは令和4年度の振り返りですので、それぞれの図書館がこういう評価をしました。この評価の在り方でよろしいかというところで、皆さんの意見を承りたいと思いますが、ほかにいかがでしょうか。

○委員 私がこれを見て思ったのは、前回の協議会の議事録にあったようないろんな方の意見があまり生かされていないというのがまず1つでした。書式とか、多分いろいろ考えて書いてくださったと思ったんですが、令和3年と令和4年を比べていらっしゃるアンケートもありますし、そうなんだろうとも思うんですけども、前回の議事録にもあるように、令和5年度に向けて、前回の3年、4年を受けて、今の段階でどういった努力をしているのかというところもないとなかなか難しいのではなかろうか。つまり、過去についてこうだったんだねというのは、それはもちろん分かるんですが、それに対して今こういう取組をしていますというところがないと続かないのではないかな、やっぱりそこで1回切れてしまうのではないかなと思いました。全体を見てということなんですけれども。

ちょっと細かいところで言うと、梅丘の安全で快適なという①のところなんですけど、開館日と開館時間と全体的な満足度を平成30年度の数字を使っていらっしゃる。これはないのかなと思ってみたんですけども、令和3年度の数字があったんですね。さっき全体の満足度のところでおっしゃっていましたが、何でわざわざこれを令和3年度ではなく平成30年度に変えたのか。業務委託が始まったからというふうにおっしゃいましたけれども、結局30年度からもう3年以上たっているわけで、純粹にもうない数字であればしようがないとも思うんですが、令和3年度のある数字に対して、令和4年度はどうだったかということをもし出されているときに、ここの前年度比は変わりますよね。もう数字上の話になってしまうんですけども、ここを何でこういうふうにしたのかなというのが1つ。

満足度ということに関して、各館それぞれ出していらっしゃるところもあれば、出していらっしゃらないところもある。私は、行ったところがある図書館もあれば、行っていない図書館もあるので、一概にちょっと何とも申し上げられないんですけども、こちらの自己評価に関して、アンケートの結果をあまり生かされていないという感じがちょっとありまして、もちろん4年度今こうやっていますということに対して、当然3年度にこうだったから4年度こうですという自己評価、なおかつそれが現在こうしていますという改革とか、改善とか、変更とかいろいろあると思うんですけども、そういったのをこちらの取組みシートに入れていただかないと、次年度どうやって続くのかなというのが私はいま一つ見えなくて、ビジョンの出来上がりはいいんですが、もうちょっと使っている人たちの意見が数字の上だけでも反映できるように取組みシートはあったほうがいいのではないかなと思いました。

○会長 これは評価ですから、これに基づいて次のアクションを考えるんですよ。これはあくまで令和4年度の実態を見て、それを評価する。そのときには、令和4年度当初に掲げていた目標に照らして、その目標がどの程度達成されているかを見ているだけです。次にどうするかは令和5年度以降の今度はアクションになりますので、そこらあたり、ちょっとやろうとしていることの御理解が、もちろんこれに基づいて、次をどうするかを考えるんですよ。考えなくちゃ意味がないです。でも、やろうとしているのは、令和4年度の取組に対する自己評価、こういうところに問題があった、こういうところが不十分だった、ここは達成できた、だから、次をどうするかは当然次のステージで考えることになります。

それから、最初に、協議会での意見があまり反映されていないという御指摘がありましたけれども、そこらあたりを含めて、事務局のほうで何か回答があればお聞かせください。

○事務局 そういう意味では、確かに前回いろんな御意見がございまして、先ほど図書館ビジョンというところではなかなか今回皆さんの意見を反映できていなかったというところは申し訳ありませんということをお伝えさせていただきました。

ただ、今、委員から言われたような令和5年度に向けてしっかり自己評価をして、それが次につながっていくような評価にすべきというご意見について、まだまだ改善が必要というところでは、当初の目標がもともと設定をされていたものを引っ張り出してきたもので、そこに対しての実績という形で書かせていただいていますので、物足りない部分があるというところは大変申し訳ございません。

あともう1点だけ、平成30年と比べさせていただいたところは、こちらは令和3年と令和4年ですと動きがあったものではないので、あえて今回示すのであれば、平成30年のほうがよかったのかなと思って記載させていただいたんですが、令和3年と令和4年を比べるべきだという意味でいうなら、ここは差し替えすること自体は構わないと考えております。

○会長 今の点は、確かに何でここだけ平成30年のデータなのかは、委員、どうですか。対応をするようですが、今の点に関して。

○委員 4年度の評価、4年度やったことをこちらのシートに挙げていますというのはもちろん分かるんですけども、4年度は4年度なんですけど、前年度があつての4年度と私は思いたいので、3年度を受けての4年度今現在こうやっていますと。なので、例えば3年度の数字が出てきているというのは、私は全然構わないと思います。ただ、自己評価というところで、4年度こうだったんです、だから今やっているんです、今こういうことを気をつけているんですというのも入れていただくほうが、各館のそれぞれの視点であつたりとかが分かるので、いいのかなと。

あと評価はもちろん私たちがこの場でするものだとも思うんですが、実際に図書館を使っている方たちの意見がアンケートだと思ったときに、アンケートの数字を全く無視してその評価というのは、私も区民で図書館は使っているんですけども、そこをあまりにも見なさ過ぎるのも、もちろん入れていらっしゃる評価もあるので、このシートの中にそういったアンケート、御自身たちで見たところを入れているところもあるので、そこはすごく気にされて、いろいろ改善されたのかなというところの数字もあるんですけども、言ってしまうと、3年から4年にかけて数字が減っているところはあまり触れられていないというのもあるので、今4年度こういうふうに頑張っているその根拠となるのは3年度の内容だと思う。それを御自身たちが、各館が考えて、4年度に落とし込み、4年度にこういうことをやっていますと。その4年度のこのシートについて、そうではないと言っているわけではなく、私はもう少し続くような形で記入できるといいんじゃないのかなというところです。

○会長 やっぱり来館者アンケートの令和3年の調査のデータはあるんでしょうか。

○事務局 この梅丘のところに関しては、当然令和3年度のデータはございます。

○会長 それから、開館日と開館時間を変更したのはいつなんですか。つまりビフォー、アフターで比べたいんですね。

○事務局 おっしゃるとおりで、変更したのが平成31年、令和元年度になるので、その前と比べないと数字が分かりづらいので、この記載にしています。

○会長 そういう事情というか、そういう背景があるわけですね。

委員、よろしいですか。開館時間と開館日を変えたのは平成31年度。

○委員 逆にそこまで翻らないといけないんですか。

○会長 ただ、ビフォー、アフターで比較するためのビフォーがつまり平成30年度の数字という意味ですよ。

○委員 今、事務局のほうから説明があったのが、今の表の欄外のポチが3つございますよね。そのポチの3つ目のところに書いてあることを今お話ししたので、ここは記載の問題だと思うので、比べるのであれば、3年で比べておいて、このポチの3つ目の注釈の後ろに平成30年のデータを追記すれば分かりやすいかなと思うんですね。

○会長 そうですね。そのほうが誤解がないですね。実際に平成30年度の数字も関連データとして添えるということではいかがでしょうか。

ありがとうございました。

世田谷の図書館の館長さんもお見えになっているんですけども、両館についてほかに何か評価について御質問、御意見があれば。

○委員 この課題や目標の中に、それぞれの館の蔵書構成に注目したものをに入れてほしいと思いました。それぞれの館の特徴と、蔵書がどう関係してくるのかというのは、やはりその図書館員が評価することだと思います。イベントと建物の環境だけになってしまうと、それは図書館員じゃなくてもできることだと思います。例えば世田谷図書館であれば、ウクライナ侵攻についての展示を行っていると書いてありますが、この展示によって、国際関係の本が足りないと思ったのか、あるいは貸出しが進んで、ニーズがあると思ったのか、また、合同庁舎に入っているということなので、役所の人たちや行政サービスを利用に来る区民のために蔵書の特徴を持たせていくのか、また、幕末維新まつりをやるということであれば、関連する本を展示用に購入するのとか、そういう蔵書についての評価や目標があるといいのかと思いました。

○会長 ありがとうございます。蔵書というか、選書ですよ。あるいは展示する本の選択、そこらあたりの状況もこの中に、スペース的にもう余裕がないかもしれませんけれども、この点いかがですか。せっかく世田谷図書館の館長さんがいらしているのです、今の御指摘についていかがでしょうか。

○世田谷図書館長 ありがとうございます。5ページの自己評価の②のところ、まさしく委員が御指摘になった、「また、所蔵資料の収集・構成にもそれらテーマ性をより反映させるべき」ということで、今、会長がおっしゃっていたように、3年度から4年度の検証の、自館ではございますけれども、お話にも出た、例えばウクライナに関すること、大変反響を呼んでおりますので、実際に5年度以降はこういった国際関係、あるいは紛争関係、この辺の蔵書は増やしているという実際の選書方針を立てて実績を上げております。

また、行政との関係でいうと、特別支援教育に関する行政レファレンスなどは世田谷図書館は受けておまして、その関係で特別支援教育に関する資料はほかの館に比べてかなり厚く所蔵を、4年度後半から5年度にかけて行っておまして、かつそれに対する御利用者の反応も非常に高かったということで、行政の連携を機会に、より潜在的な御利用者のニーズといったものが分かるというきっかけにもなり、所蔵の充実にもつながったということ。

また、幕末維新についても御指摘のとおりでして、コロナの3年間の空白がありましたが、その後おかげさまで5年度復活をいたしまして、幕末維新に関する資料を改めて検証して、やはり足りないところはあるといったことで、これは購入だけではなくて、各館で所蔵しているその類する資料について、これを世田谷に集約しようという方向で調整をしております。したがって、そういったテーマ性に沿った収集といったことは強く意識をして今進めているところです。

○会長 ということのようです。委員、いかがですか。その辺がもう少し書き込めたらいいなと……。

○委員 まさにそうです。そんなに特徴のあることをやっていらっしゃるというのは、このシートに記入されるだけでなく、図書館の中にも掲示をしたり、世田谷区民にも広くお知らせして知ってもらいたいかなと思いました。

○会長 この取組みシートのスペースがもう限られているんですけども、今のような成果についても、自己評価のところでも少し盛り込んでいただけるとよろしいかと思えます。ありがとうございました。

この2館について、ほかの方はいかがですか。

○委員 2点ほどございます。1つは、梅丘図書館、去年訪問しまして、個人的に大変好きな図書館だと思いました。単独館なんです。単独施設なんです。ある程度時代がたっていて、成熟している趣のある図書館だと思いました。ですが、この評価の内容を見ますと、老朽化といった否定的なことばかりが書いてあるので、もうちょっとこの梅丘の魅力みたいなのが伝わるような、ほかの図書館は、私も幾つか見たんですが、ほかの施設との複合施設が多くて、図書館としての魅力がアピールできるようなところがそれほど数がない。ここもそうですけれどもね。ですが、この梅丘は歴史もあるし、それからとてもすてきな公園の中に位置していて、趣のある図書館なので、そのあたりをもう少しアピールしてもいいかなと思いました。

2点目なのですが、取組の実施状況の2ページの上のほうです。「地域と連携した魅力ある図書館づくり」で、その指標になっているものが子どもに対するサービスだけで、地域と連携したというそのテーマと、1つぐらい入っていてもいいと思うんですが、3つあって、3つともというのはちょっといかがなものかと思いました。世田谷のほうを見ますと、これは乳幼児向け行事のほかに、自主生産品ですとか、幕末維新まつり参加、こういった少しバラエティーを持たせている。なので、梅丘のほうももう少し偏りのないセレクト、選択したらいかがかなと思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。梅丘の施設についてのアピールをもう少ししてもらってもいいんじゃないか、それから、2番目のほうの評価指標、これがやや児童のほうに偏っているんじゃないかと、もう少しバランスを考えた指標を取り上げてもいいんじゃないかという御指摘でした。これは、今日梅丘の館長はいらしていないんですが、基本的にはこの評価のやり方でいいんですけども、もう少し指標や施設面でのアピールをということですよ。それは御検討いただけませんか。

○事務局 事務局のほうで検討したいと思っています。ただ1点だけ、梅丘に関しては、正直大人のイベントができていなかったというところがこちらの課題のほうにもマイナスで書かせていただいております、というのも、先ほど梅丘図書館、とてもいい図書館だとおっしゃっていただいて、最後、そこで長く使われた方がさよならイベントを令和5年度になって、改築工事に入る前にやったんです。そういった連携に向けて動いていたというところもあって、なかなか少人数の中でそこまで動き切れなかったという状況はございました。

○会長 ありがとうございます。そういう意味で自己評価についてのいろいろと改善点とか、もう少しバランスの取れた評価をということで御提言をいただけるとよろしいかと思えます。

○委員 行った図書館と行かない図書館があって、ちょっとイメージが私の中でできづらいんですけども、図書の保有数とか、登録者数、貸出しは分かるんですが、フロアの大きさも、地図があるので、館内図があるので、大体分かるんですが、ただ、何人が運営しているのかが実は分からないので、何人でこの図書館を運営していて、年間の入館者数はカウントしているのかどうかは知りませんが、何人来ているのかというのが分からないので、どの程度皆さんが忙しいのかちょっと把握ができなくて、ちょっとイメージが湧かないというのがあるので、もし次回でも、あるいは来年度でも、できればイメージがつかめるような形にしておいていただければなと思えますし、それが資料的なものが1つです。

あと、梅丘と世田谷の方に可能であればお聞きしたいのは、一部業務委託の形式で運営されていますけれども、これに関する館長さんの評価というのはどんな感じなんですか。それだけで、その2点です。

○会長 大事な点だと思います。ありがとうございます。2番目のほうの一部業務委託については、世田谷図書館の館長さん、それとも事務局にお答えいただいてもいいけれども、業務委託についてですよね。最初の点については、私も同様に感じていましたので、ちょっと後で補足させていただきますが、最初の点はいかがですか。

○世田谷図書館長 世田谷図書館は、今おっしゃっていただいたように、一部業務委託ということで、区の正規職員が5名と、それから委託事業者様のスタッフの方が17名という構成でやっております。業務の分担としましては、御利用者から御覧になる眺めとしては、ほとんどが委託している事業者のスタッフの方々に、区の職員の役割としては、特に中での選書、それから予約処理の一部、それから建物の管理、あとは庶務といったところで、こういった区分をしております。

お尋ねの一部業務委託について館長としての評価というか、これまでの感想でよろしいでしょうか。申しますと、私も直営館の館長から一部業務委託の館長、それから指定管理に移管するときの館長、いろいろ立場を異にして経験をしておりますが、それぞれに一長一短もあるのかなとは感じています。少なくとも一部委託につきましては、窓口業務に関しての接遇度、あるいはサービスの満足度、これは先ほど話題に出たアンケート調査を見てもはっきり出ていますが、非常に高い実績を上げています。高い評価をいただいています。これは厳然たる事実です。

もう一つ、やはり労働法の関係もございますので、いわゆる偽装請負という言われ方がありますが、私ども在籍している世田谷区図書館の職員は、委託事業者様のスタッフに直接指示をしてはいけないと、責任者を通じて業務の指示をなさいといった法令の縛りがあります。したがって、なかなかそこで法に抵触しない形での円滑な運営といったところでは、同じ部屋で同じ空気を吸いながら、少し時々慎重さを期するといったところは現場ではございます。

私から申し上げられるところは以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

事務局、補足はありますか。

○事務局 私も直接現場と一緒に立っているわけではないので、ちょっと又聞きというか、館長さんたちからの意見ですと、今、世田谷図書館長がおっしゃったように、直接指揮命令系統がないところがもどかしいのと、一部業務委託なので、新たなことをやるときに、仕様書上に載っていないとなかなか命令しづらいという点がございます。その点、直営や指定管理のところだと、館長が発案して、今年やろう、今やろうということで、もうちょっとクイックリーに動けますが、一部委託については、委託仕様上に載っていないこ

とについてのお願いがなかなかしづらいと聞いております。

○会長 ありがとうございます。そこらあたりを含めて、これは一部業務委託の是非を評価するという枠組みではないんですよね。そこをくれぐれも誤解のないように。あくまで自己評価ですので、館長さんが一部業務委託の是非をここで評価することは、私はそれは難しいと思いますね。

委員が尋ねられたのはそのあたりなんですか。一部業務委託のよしあしというか。

○委員 一部業務委託の実際のところがよく分からなかったので、今、仕様書の話をして、ああ、なるほどと思いましたし、お話を聞いてよかったと思います。仕様書というのは1年ごとに内容を更新するんですか。

○事務局 そうです。

○委員 なるほど。ということは、自分の希望を次年度に一応繰越して、更新することが可能ということですね。

○事務局 そこは不可能ではありません。

○委員 私は評価を伺いたいわけじゃなくて、実際はどういう問題が起こっているとか、悩みがあるのかをちょっと聞いたかったんですよ。

○会長 今後の検討課題ですね。そこまで含めて、この自己評価の中で取り上げられるかどうか、指定管理もそうですし、一部業務委託も、そのことのよしあしを取り上げることになるので、ちょっと枠組みから私は外れちゃうような気もいたしております。でも、今の御指摘の点は検討課題ですね。

それから、委員が最初に言われた職員数だとか、あと入館者数と言われましたよね。私もその辺の基本的なデータがそれぞれの図書館については欲しいと思いました。資料の後のほうに小さい数字で、今日の資料に、資料6ですか、令和3年度と令和4年度の蔵書数やかなり細かいものがありました。これのうち、当該図書館についてのものは何か一覧で

きるようにしておいて、職員数あるいは貸出数、入館者数は取っているところもあれば、取っていないところもあるんじゃないですかね。センサーで自動的にカウントしているんですよね。あれの精度も実はかなり怪しいということは、私ども学術的な研究で分かっているんですが、精度、あれはかなり多めに出るんです。でも、それでもいいから、過去3年分の基本データがここに添えられると、大きなトレンドとしてこの図書館は利用者が増えているのか、減っているのか、あるいは蔵書数がどれぐらいなのかも分かりますので、この中のどこかの、住所とか概要が載っているページがありますよね。施設の平面図はそんなに毎年大きく変わることもないので、これは私はもう少し小さくてもいいんじゃないかと。その代わり今、委員も言われたような職員数だとか、蔵書数、あるいは貸出数、場合によっては入館者数、そこらあたりの過去3年分を一覧できるような表も添えていただくと、マクロなトレンドが分かってよろしいんじゃないかと感じました。

以上、ちょっと補足させていただいた上で、あと6館ありますので、申し訳ありません。また最後に全体を振り返った見直しというのは時間を取りたいと思います。

次の2館です。玉川台図書館と烏山図書館、これについてのまず説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、事務局から説明させていただきます。資料4の7ページを御覧ください。玉川台図書館についてです。こちらは区の職員の直営での運営になっております。

運営方針につきましては、①「大人の学びを豊かにする図書館」、②「地域に根差した魅力あふれる図書館」となっております。

課題としましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント等、開催、集客の難しさがあった。テーマ本の設定など、ふだん陽の目を見ない資料に光を当てるよう工夫が必要と。目標としましては、大人を対象にした朗読会、講演会などの事業をできる限り実施する。また、様々な分野をテーマにした本の展示を充実させ、その分野に興味を持ってもらうように取り組む。

②の課題としては、開設50周年を迎えるに当たり、地域資料の充実や地域との連携を推進していく必要がある。目標としましては、地域資料の充実に努めるほか、コロナの影響で一部中止となっていた地域と連携した事業の実施など、地域に根差した図書館を目指すといったところでございます。

実施した状況につきましては、講演会ですとか、大人の朗読会、テーマ本展示といった

ところを記載させていただいております、②のほうにつきましても、地域のコミュニティーのお祭りですとか、地域連携のイベントの実績を記載させていただいております。

自己評価につきましては、①、②を通じて、1階が区民センター、2階が児童館という複合施設です。センターの運営協議会も加わった中で全体のイベントなどが行われています。地域との関わりを広げるべく努力している。また、地域資料の収集、特に世田谷美術館とは事業運営に関する協定を結んでおり、展覧会の図録などを多数寄贈いただいている。今後の課題としては、まず出版数の少ない近隣地域資料をどのように充実させていくか。もう一つは、限られた書架で特性を出し、維持していくための工夫が必要だと、こういった2点を中心に従来の図書館サービスをしっかり行っていくことが重要だと考えているという自己評価になっております。

続きまして、おめくりいただきまして、10ページを御覧ください。烏山図書館、こちらは指定管理者が運営している図書館になってございます。

運営方針につきましては、①「図書館利用の機会を創出する事業の実施」、②「図書館の利便性を高める環境づくり」。

①の課題としては、地域に根差した身近な図書館として感じられるよう、利用者の課題解決や図書館利用につながる事業を実施していく必要がある。目標としては、新たな事業に取り組むなど、図書館利用につながる企画等を展開する。

②のほうに関しては、駅前の好立地で利用も多く、利用者のニーズに応えるために、図書館の利便性を高める取組が必要である。目標としては、開館時間の延長を行うほか、コロナ禍で安心して利用できる環境を整備し、図書館の利便性を高める取組を行うとなっております。

こちらの資料の下の実績、①、②が逆転してしまっていて、ここは数字の間違いでございます。最初が①、こちらは主に指定管理者が取り組んだという新規事業についての実績が載せられております。

11ページのほうでは、②として、利便性を高める環境づくりのほうに関しては、先ほど来アンケートに関する数字などが記載されておまして、その他、新たに取り組んだことや、福祉の自主生産品の販売といった事業が掲載されております。

その下、自己評価に関しては、①に関しては、こういった取組は児童向けを中心に大変好評で、地域の連携に関しては、今後はもっと地域に溶け込み、図書館側が主体的に企画したものを地域の皆さんと取り組んでいきたい。

②に関しては、利用者から直接、時間延長に対してお礼の言葉ももらっている。図書除菌機については、徐々に利用する方が増えていますと。障害者施設自主生産品の取組やサイン表示を工夫するなど、利便性の高い図書館として認知してもらえるように努力していますと。また、デジタルサイネージを置いているので、そちらはブラウジングを楽しむきっかけづくりを担っているというような自己評価が記載されております。

雑駁ですが、以上でございます。

地域館の館長さんのほうで、玉川台図書館、烏山図書館、取組で何か補足はございますか。これをやっているんですというのがもしございましたら。

特段なければ、また質問に答えていく形の中で、ぜひPRしていただければと思います。

以上でございます。

○会長 玉川台図書館と烏山図書館、先ほどと同じように自己評価のこの枠組み、その内容について何か。

○委員 玉川台図書館は、私の家から近く、最近中央図書館のほうを利用することが多いんですけれども、この前、久々に玉川台図書館に行ってみました。取組の実施状況の欄には、大人の学びを豊かにする図書館ということで、こういうことをやりましたということは書いてあるんですけれども、どこかに、どのくらいの人が参加をしてどんな感想があったのかとか、美術館と連携した行事もずっと続けているようですが、参加者はどんなふうを受け止めているのかとか、そういったところまで書いていただいたほうが、よりその効果というのがこちらにわかるのかなと思いました。

それから、玉川台図書館では、子ども読書リーダーのポップがあったりとか、ほかの館もやっていることなのかはわからないんですけれども、その職員の方のお勧め、新規図書のお勧めみたいなものが、ファイルにつづられて置いてありました。それはとても生の声が伝わると思いますか、この方たちがお勧めしてくれている本なんだなということで、非常にいいなと思いました。ただ、ファイルとかにつづってあって、なかなか分かりづらい。探しに行ったら見つかりますみたいな感じなんですけれども、もう少し見え方の工夫といいますか、来た人の目にすっと入るような、そういった展示の工夫があったらいいのかなという感想を持ちました。

○会長 ありがとうございます。玉川台図書館の館長さん、いかがですか。今2点御指摘があったんですが。

○玉川台図書館長 御来館いただいてありがとうございます。このところ、私が玉川台に行ってから一番先に起こったのが図書館の閉館だったんです。正直な話、ここ数年で今が一番まともに動いているという実感なんです。その中で、失われたそのときを取り戻すことがもう思いのほか大変なんです。

玉川台、御覧になって分かると思うんですけども、場所がものすごくやっぱり狭いんです。書庫もそんなに大きくないですし、でも、蔵書数に関しては、うちは一応10万ぐらいはありますし、でも、御利用が多いので、回っている本が多いので、辛うじて今の状況でやられているような状況でございます。そういった中で、ワンフロアであるということで、動きやすいこともあるんですが、区民センターの3階にございまして、やはり図書館に来る方しか来ないという感じで、ふらっと寄ると感じる位置ではないので、そういうところでは、利用者数を増やすということは、私たちにとってなかなか難しい問題になっております。そこを持ってきて、テーマ本ということでいろいろ御指摘がありましたけれども、1階のところに職員のお勧め本という形で、入ってすぐのところにガラスケースで置きまして、そこで面出しをして目立つようにして、その本、お気に召したら上に行ってくださいれば、お貸し出しできますという形のやり方とか、狭いながらもいろんなやり方でやっております。

利用者の方の利便性を考えてということで、いろいろ工夫はしているんですが、何分いろんな表示をするスペースもなく、物を置くスペースもない、そういったところでの工夫になりますので、いろんな御意見をいただけたら非常にありがたいと思いますので、また参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。もう少し1番の取組について具体的に盛り込んだほうがよろしいのではないかとこのふうなサジェスションをいただいたんですが、そこは今後、反映できれば反映してください。

○玉川台図書館長 そうですね。世田谷美術館のほうも、このコロナで全くというほど動きがなくて、この1年、2年はほとんど接触をしていなかったという感じのところもあ

りますので、また今後に期待していただければと思います。

○会長 ありがとうございます。コロナが収まってきたところで、そういう他機関との連携も一層充実していただけるといいと思います。

玉川台と烏山、ほかはいかがでしょうか。

○委員 烏山図書館についてです。10ページの真ん中あたりに、取組の実施状況で、図書館利用の機会を創出する事業の実施ということで4つほど大変魅力的な項目が挙がっているんですが、2番目、3番目、4番目は、例えばタブレットPCですとか、それからあとクロマキーですか、知らないんですが、こういったものは多分図書館にあるものではないと思うんですが、連携してやっつけらっしゃるんでしょうか。講師ですとか、それから必要な機材ですとか、そういったものはどうなっているのかなと思ひまして、もし連携されているのであれば、それをアピールするような記述があってもいいかなと。11ページの下の方に、自己評価の①のところに簡単に連携云々と書いてあるんですけども、割とはっきりと書いていないので、もうちょっときちんと書かれたらいかがかなと思ひました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。比較的単純な御指摘というか、質問だと思うんですが、烏山図書館の館長さん、いかがですか。

○烏山図書館長 烏山図書館です。今お話のありました自主事業の取組についてなんですけれども、まず、はじめてのタブレットPCですとか、本の世界に入ってみよう、こうした機材に関しましては、どちらも本社が所有しているもので、こちらは特にどちらかと連携してということではなく、本社の機材を利用してということになります。その間に入っている楽しいプログラミング教室みんなでViscuit、こちらは、機材のほうは私どもで用意をしてきて、講師の方は外部の方をというような形で運営をしております。

地域との連携をとというのが反省で書かせていただいたんですけども、私ども令和4年度の4月から運営を始めさせていただきまして、正直なところ、最初の半年ぐらいは引き継いだことを、貸出し、返却をこなすことで精いっぱいといいますか、それなりにもちろ

ん専門性をうたっての私どもの受託なんですけれども、使っているシステムがほかの自治体と違うなどということもあり、なかなかすぐには慣れずに、利用者様に御迷惑をかけてしまうところも最初の一、二か月はあったので、まずそういったミスを潰していこうというところが最初の半年でかかってしまいまして、こうした取組なども、どちらかといえばどんどん後ろ倒しになってしまっていて、駆け足でやったというところもありまして、さらに地域との連携というのは、そんな半年ぐらいで我々を知っていただくというのがなかなか難しいところもありましたので、ちょっと反省点のところでは書かせていただいたところでございます。

○会長 ということなのですが、委員、よろしいですか。

○委員 結構です。

○会長 ありがとうございます。

そうすると、これは指定管理の図書館ですよね。今取り上げたタブレット端末を使ったり、クロマキーですか、合成撮影技術を使うことによって、これの目標は、①で「図書館利用の機会を創出する事業の実施」としてやっているわけですよね。ということは、このはじめてのタブレット講習会やクロマキーを使ったこのイベントに、今まで図書館に来たことがない人が少しでも来たんですか。つまり、図書館の利用者の中で関心を持っている人が、これは参加者8名とか、参加者23名と書いてあるんですが、これはもともと図書館によく来ていた人たちなんですか、それともこういうのを図書館がやるから、今まで図書館に行ったことがないけれども、図書館に行ってみようという人が少しでもいたんですか。どうなんですか。

○鳥山図書館長 申し訳ございませんが、そのあたりの検証というか、そこまでは正確にデータは取っていません。

○会長 それはもったいないと思う。だって、図書館利用の機会を創出する事業だとしたら、それは今まで図書館に関心がなかったただけれども、これを機会にちょっと行ってみようという気になった人がいれば、私はむしろアピールするべきだと思いました。残念な

がそれは確認していないということなので、それは残念です。

○委員 まさに今、会長がおっしゃったのと同じことを質問しようかと思っていたところなんですけれども、これまで実施していなかった新たな事業に取り組むということで、このイベントの告知はどのような形で発信をされたのか、今までと違ったのか、従来どおりの形であったのか、あと参加者数に目標数を設けているのかどうかというところをお伺いしたいです。

○鳥山図書館長 まず、告知の方法なんですけれども、令和5年度に関しましては、恐らくほぼ令和3年度より以前というのも私も存じ上げないものですから、引き継いだとおりの図書館のホームページに上げさせていただいたり、私どもで作ったチラシ、ポスターなどでの告知がメインとなっております。

目標というのは特には掲げてはおりませんで、もちろん部屋のキャパシティーによって定員を決めておりますので、まずはその定員を埋めるというのが目標というところでございます。

○委員 これは事業評価を超えたお話なので、あくまで参考としてお聞きいただければと思うんですけれども、やはり図書館利用の機会を創出するに当たっては、どういう形で発信をしていくか、告知をしていくかというのは、従来のやり方を超えていかない限り、新しい来館者を誘導することはどの館にとっても難しい課題だと思いますので、そこはすごく大きな目標として、やはり今後の課題として持っていかれてはいかがかと思う次第です。

○会長 ありがとうございます。今御指摘のとおりだと私も思うんですね。だから、多分これは指定管理ならではの発信の方法、つまり区の直営だったらこういうことしか広報でできないけれども、民間だったらこんなやり方で、今まで図書館のほうを振り向いていない人にも図書館を振り向けさせるんだというぐらいのことができないと、私は指定管理にする意味はあまりないんじゃないかと思います。

それから、せっかくこれをおやりになったんだったら、やっぱり参加者に、あなたはこのイベントをどうやって知りましたかとか、ちゃんとフォローして、PRの方法も改善に

つなげていくべきだろうと思いますね。今まで図書館を使ったことがありますかとかというふうに聞いて、新たな利用者を開拓したのであれば、それは逆にアピールしていくというか、これだけの実績を上げたんだ、今まで図書館に来なかった人が来るようになったんだということをアピールしていくべきだと思いますね。ぜひ今後、そういう方向でもお考えいただきたいと思います。

○鳥山図書館長 先ほどの初めて利用したかどうかというのはアンケートでは盛り込んでいなかったのですが、今後の検討とさせていただきたいと思うんですけども、どのような媒体を見てこのイベントをお知りになりましたかというようなアンケートの設問はさせていただいております、ほとんどが館内のチラシなどを見てということが一番利用率が高かったです。

令和4年度のことでしたので、新しいということは特になかったんですけども、令和4年度の最後のほう、実際のところは令和5年度に入ってから運用がメインとなったんですけども、こちら11ページの上から3行目、オンラインプラットフォームのnote、ちょっとブログのような形、こちらでも徐々にイベントの告知などをさせていただいているところでございます。ただ、まだちょっと認知がされておらず、なかなかアクセス数は上がっていないんですけども、今後はこのアクセス数が伸びるような施策を考えていこうと思っております。

○会長 ありがとうございます。

ほかにこの2館について、もう一方ぐらいいらっしゃればお聞きして、その後、次の図書館に移りたいと思います。

○委員 今日、途中から来たので、前の2館で話があったらあれなんですけれども、玉川台図書館で取組の実施状況のところ、開催時期が9月にずれ込んだことで募集人数、参加人数が少なくなっているというのがあって、そうすると、例えば募集が何人だったかによって、令和3年は募集は30人だったけれども、24人で、令和4年は募集は何人だったけれども、20人でとなると、単純に人数だけで比べられないのではないのかなと思って、同じように、さっきの鳥山図書館のも、募集に対して参加者が何名みたいなのがあると、今後、比較とか、宣伝効果とかが分かりやすいのではないのかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。いわば募集定員が分かって、はっきりしているものとそうでない、募集定員がはっきりしている場合にはそれも明示したほうがいいかもしれません。ちょっと御検討ください。

それでは、同様の形式で、次に、深沢図書館と桜丘図書館の取組みシートの御説明をお願いします。

○事務局 そうしましたら、13ページ、深沢図書館のほうを御覧ください。こちらの運営体制につきましては、区の職員の直営でございます。

運営方針につきましては、①「地域に根ざした図書館づくり」、②「利用者ニーズに応える図書館運営」となっておりまして、①の課題につきましては、利用が近隣の住民に固定しがちだと、地域の方々と連携し、学校や児童館と協力して地域の活性化の拠点となることが求められている。目標としましては、区民センターや児童館との共催イベントを通じて、利用者層の拡大を図る。出張おはなし会や図書館見学や職場体験など、学校との連携を強化する。

②に関しては、課題が社会全体の活字離れが進む中、利用者ニーズに応える蔵書を収集することで読書文化を守り、利用者に情報や知識を届け、より豊かな生活を手に入れられる図書館をつくっていくことが求められている。目標に関しては、展示コーナーにおいて図書館の特色を生かした魅力を発信する。また、障害者、高齢者、多文化サービスの充実を図る。さらに、利用者ニーズを反映した資料収集を行うといったことを掲げております。

①に関しては記載のとおりで、おはなし会や図書館見学など、そういった事業を行っておりますと。

また、②のほうは、児童文学作家の中川李枝子さんの「ぐりとぐらコーナー」があるというような特徴もあって、そういったことを生かしての特色など、またLLブックといった表記のしやすい、読みやすい本、表記の分かりやすい本を工夫してコーナーを新設したということが記載されております。

自己評価に関しては、①がコロナ禍で休止したイベントを再開した。また、行事を通じて多くの子どもたちに本の楽しさや読み聞かせの面白さを伝えることができたといったことを記載されています。

②に関しては、職員のアイデアで中川李枝子さんへの手紙や、また、LLブックコーナ

一の新設といったものに取り組み、図書館独自の魅力については利用者に伝えることができた。利用者に自分の図書館として親しみを感じてもらえたのではないか。もう一つは、深沢図書館の児童書に関しては、一般書の貸出数を上回っており、充実している。利用者アンケートでも本の種類や数に対する満足度については、満足、不満、どちらも少なく中程度というところから、バランスが取れているのではないかというような自己評価をされています。

続きまして、16ページのほうに移らせていただきまして、桜丘図書館、こちらも直営で運営している図書館になってございます。

運営方針につきましては、①「利用者ニーズと地域特性を踏まえた蔵書の構成」、②「常に親切で丁寧な接客を意識した窓口対応」。

①の課題につきましては、幅広い年齢層の方に利用していただいているが、主な利用者層のニーズを把握し、地域特性等を踏まえた蔵書構成を図っていく必要がある。目標に関しては、主な利用者層や幅広い年齢層のニーズを意識した選書を行う。近隣の小中学校と連携を図り、地域の要望にある蔵書構成を図っていく。

②に関しては、課題は新型コロナというところで、マスクの着用など、表情が伝わりにくいというところでの接し方に難しさを感じる。その目標としましては、不快感のないよう、感染症拡大防止にも考慮しながら、親切で丁寧な接客を行う。

①に関しての事業の実施状況につきましては下の記載のとおりで、資料収集の取組など、地域資料など、そういったところの取組を行っている。

②に関しては、職員の接遇について、丁寧な接遇を心がけ、レファレンスやクレームとなった事例を共有するなど、そういった職員との共有を図ってきたというようなことが記載されています。

自己評価に関しては、①として、スペース的に専用コーナーを設ける余裕はないが、引き続き認知症関連図書の購入を積極的に行っていきたい。近隣の中学校との連携を図って、YAポップの作成など、そういったものを取り組んでいきたいと考えている。また、都内に9か所しかない目の教室（弱視通級指導学級）が近隣の小学校にあるので、改めて資料の貸出しやおはなし会を行うようになっていった。今後、大活字の児童書等、弱視の子どもたちが利用できる資料の選書を図書館として増やしていきたい。

②に関しては、職員が常に親切かつ丁寧な接遇をすることで、接遇の満足度を上げていきたい。住宅地にある図書館であるため、近隣の住民がほぼ利用されているという状況な

ので、私語が目立つような指摘もあったというところなので、不快のないような接遇をしていきたいということが自己評価として書かれております。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。深沢図書館、それから桜丘図書館の館長さん、何か補足はございますか。特にありませんか。

それでは、早速、委員の皆さんから御質問、御意見を賜りたいと思います。

○委員 長年、深沢図書館を使っています。図書館部分の平米が622平米ということで、今回最も小さいんです。それで、先ほど玉川台の館長さんからも狭くてという話があり、あそこも狭いですよね。狭小図書館の扱いを、蔵書数とか、これは私、素人が言っていることですから、単なる参考としてお聞きいただければいいんですけれども、ほかの図書館とは同等にしないほうがいいような気はするんです。なぜかという、深沢図書館に行く居場所がないんです。書架はいいんですけれども、ほとんど居場所がなく、今は、コロナのときは人はいませんでしたけれども、要するに、借りる、返すだけの図書館なので、私の個人的な考えでは、書架を半分なくしてしまって、滞在できるスペースがあって、利用の多い分野だけを残して、そのほかは中央図書館に移管してもらおうとか、そうしたほうが狭小図書館としては生きる道としてはいいような気はするんですが、単なる提案ですけれども、実現していただくといいなと思って言ったまでです。

以上です。

○会長 ありがとうございます。今、大胆な提案をいただいたんですけれども、事務局なり、図書館側、何か御発言があれば、どうぞ。

○事務局 資料の半分ぐらいというのはさすがにきついとは思いますが、例えば全集物であるとか、百科事典といったものを少し整理するという考え方は最近図書館の中でも出てきています。ただ一方で、貸出し率がいいものだけを貸すとなってしまうと、それは貸し本屋になってしまいますから、知と文化を育てていただくために、こういった蔵書がいいかというのは今後も考えていきたいと思っています。

○委員 そのとおりですけれども、本がない場合は、私は尾山台とか、ほかの自転車で回れるところに行くので、その一つの図書館で完結する必要はないと思うんですよ。近隣の3つぐらいの図書館でバランスを取って構成ができたらいいなと思うんです。

○会長 ありがとうございます。私、長年全国の図書館を見てきた立場から一言だけ申し上げます。622平米は間違いなく狭いです。かつて図書館を日本全体で、ポストの数ほど図書館をとって運動していた時代があるんですよ。小さくてもいいからとにかくたくさん、もはやそういう時代ではないんですよ。だから、本当は統廃合したいところなんです。これは図書館側が自らの自己評価の中では言い出せないですね。自分の図書館とあそこが一緒になって合併したほうがいいと。それはやっぱり区民の方々が長期的に見て、もっと図書館はこうあったほうがいいのか、それこそビジョンよりももっと先みたいな話です。10年後、20年後の世田谷区の図書館の在り方を考えるときに、おっしゃるような統廃合を進めて、それなりに使える規模の図書館、私は最低でも2000平米ぐらいないと駄目だと思いますけれども、そういうのを少数にするとかというような提案をされていくことを、個人的にはお勧めします。この場でそういう議論をもっとやろうというのはちょっとふさわしくないで、それぐらいにしておきますけれども、ありがとうございました。

ほかに深沢図書館、桜丘図書館についていかがでしょうか。この両館についてごいませんか。

○委員 先ほど蔵書構成ということでお話をしたのですが、この桜丘図書館の場合は、蔵書構成を課題や目標に掲げていたので、注目しました。課題や目標で、利用者層のニーズを把握するということですが、16ページの下から2行目には、「主な利用者である高齢者を対象とした蔵書」とあるので、そうすると、把握した結果、主な利用者層というのは高齢者だと認識したと理解しました。それで難しいところですが、だから、高齢者のための選書を行っていくのか、逆に新たな利用者層を開拓するのかというところはどうか。蔵書構成を①に掲げた点というのは評価したいと思います。

○会長 ありがとうございます。桜丘図書館の館長さん、いかがでしょうか。

○桜丘図書館長 今、御指摘いただいた点について、私も自分の図書館についてはこういうことを目標にしてやりたいということはずごく思っていたんですけども、結果としてちょっとぶれが生じてしまったかなというのが、令和4年度を振り返ってのところですか。実際問題、自分の感覚としては、幅広い年齢の方に来ていただいているなと思いつつも、やはり認知症の講演会にニーズがあったりということで、高齢者の方が多いと思われるので、それに沿った選書をとっていたんですけども、なかなかこれが結果としては難しかったというのがあります。一方で、目の教室の存在とか、あと近隣の小学校、中学校の連携の中で、小学校、中学校の生徒さんになるべく来てくださるような選書ということもあり、そういう意味では御指摘があったとおり、消化不良に終わったので、このあたりを整理しつつというのが現状ということですか。正直なところをお伝えいたしました。

○会長 ありがとうございます。委員、よろしいですか。

○委員 利用者層を1つに絞る必要はないと思うので、当然多様でいいとは思いますが、中学生、高校生、大学生と若い世代が楽しめない図書館になってしまうのもよくはないと思うので、そのバランスですよね。地域的な特徴、利用が多い世代に特化したサービスと、新たな利用者層をどう開拓するかというところは、なかなか大変だと思いますが、今どの図書館も利用者層は高齢者で、若い人はなかなか来ないという悩みがあり、自館だけで抱える問題ではないと思いますので、幅広くいろいろな情報を入手して、探っていたくのがいいと思います。

○会長 ありがとうございます。

ほかにこの両館について何か御質問、御意見はございませんか。

私から、やはり桜丘図書館なんですけど、17ページの上の②「常に親切で丁寧な接客を意識した窓口対応」で、令和3年と令和4年のアンケート調査のデータが出ているんですけど、いずれも125%とか130%超えで、かなり改善されているんです。大幅に改善されている。これはこの下に書いてあるレファレンスやクレームとなった事例を職員内で共有し、今後の対応について検討を行った成果と見てよろしいんでしょうか。

○桜丘図書館長 格好よく言うとそういうことになるかと思うんですけども、職員数が現在、非常勤職員も含めて21名で小規模なので、情報の共有がしやすい。何かあったときに、すぐ共有して気をつけようねということが言えるというのがあります。

○会長 いわゆる小回りが利くというような感じですね。

○桜丘図書館長 そうですね。そういう言い方もあるかと思いますが。

○会長 せっかくほかの地域館の館長さん方もこうやってそろって、実際に日常的に区立図書館を使っている区民の方がいる場で、こういう意見交換ができるのって、私はすごく重要だと思うんですよね。ほかの図書館でもぜひ、例えば桜丘図書館のこの窓口対応がこれだけ向上したのであれば、うちの図書館でも少しやってみようとか、そういうことを考えていただけると、こういう場を持つことの意義というのが私はすごく大きいと思うんです。必ずやれとは言いませんけれども、これだけの成果が上がっているの、桜丘図書館のノウハウみたいなものを、ほかの地域館や中央図書館にも反映させていただけるといいだろうと思います。こういう評価を公開の場でお互いに見える形でやる意義はそこにあるだろうと個人的には考えます。ありがとうございました。

○委員 桜丘って令和4年だと満足度が2番なんですよね。上から2番目で、そう思ったんですけども、深沢も狭いとおっしゃっていたんですけども、満足度が50.8から68.4に上がっているんですよね。その理由は分からないんですけども、そういう数値の変化、アンケートの数値をもし見るのであれば、やっぱり各館ごとのよくなっているところ、もちろん駄目なところもあると思うんですけども。本の蔵書の満足度も随分変わっていて、本に関してだったら38.8%が61.4%にすごい激上がりしていて、雑誌とかも31.3から40.4というふうに、内容に関しては随分変わっているらしいなというのはその数字の上から分かった。居心地も下がっているわけでもないというところでの、実際に感じている人と、数字上の乖離ももしかするとあるのかもしれないんですけども、そういうところをもう少し、いいも悪いもになるんですが、各館のそういった令和4年度のアンケートの数字の変動とかを触れられたところがもう少しあると、分かりやすくなる場所もあるのかなと私はちょっと思います。

○会長 そうですね。それか、図書館の利用全体の伸びにつながっているのであれば、これは高く評価されるべきだとは思うんですよ。貸出しの数字を見ていると、そんなに桜丘の場合に、令和4年度でむしろ多少減っているんですよね。

○委員 アンケートに答えている数が違ったんです。

○会長 実はその点重要なんですよ。アンケートのやり方に若干私は問題もあろうかなと、それは今後の大きな課題ですけれどもね。つまり、カウンターの周りに置いておいて、持っていった人が答えているというやり方ですよ。

○委員 あとウェブでも始まっているんです。

○会長 ウェブでもやっていますね。そこらあたりは今後の課題で、今ちょっと時間がないので、そこを取り上げるつもりはないんですが、こういうふうな形で改善点が見られることをお互いに共有して、その要因を探り、それぞれの図書館の改善に結びつけていくというところが大事だろうと思います。ありがとうございます。

それでは、最後に残った2つの図書館、上北沢と鎌田図書館ですか、これについての説明をお願いいたします。

○事務局 そうしましたら、19ページ、上北沢図書館についてですが、こちらの運営体制は区の職員直営でございます。

運営方針は、①「知と学びと文化の情報拠点となる図書館」、②「多様な活動等を支援する図書館」となっております。

①の課題につきましては、新型コロナウイルス感染症という社会情勢を踏まえながら、第2次図書館ビジョンに掲げる基本理念、知と学びと文化の情報拠点実現に向けて、子どもが本に親しむための取組や読書、地域文化の情報発信を積極的に実施していく必要がある。目標としましては、小中学校及び児童、乳幼児施設等の機関と連携し相互支援する。また、テーマ展示、地域在住者の作品展示など、利用者が本に触れる機会となるネットワークづくりの取組を実施していく。

②のほうの課題は、区民参画の促進や図書館外でも本に触れる機会の創出、地域で活動

する関係機関との連携といったところが必要だと。目標については、区民センターや児童館などと連携した事業を展開する。ボランティアの育成、図書館での活動を支援するところがございます。

実施状況につきましては記載のとおりでございます、自己評価につきましては、①についてが出張おはなし会や調べ学習支援、図書館見学などを通して地域の学校や施設とのつながりを再開させることができた。今後も継続して子ども読書活動推進に向けた協力をしていく。本展示についても、本との出会いを増やす場としての継続実施、地域住民制作の作品展示を通して地域文化の発展に取り組んでいく。図書館を身近に感じてもらい、図書館利用向上につながるように努めていくという記載でございます。

②は、区民センターや他機関事業との協力、活動等の支援を行うことができた。今後も図書館のPRをしっかり行っていく。ボランティアについては、学校おはなし会ボランティア講座修了生との勉強会、おはなし会などを協働して行い、ボランティアの育成支援に努めた。今後も活動の区民参画を促進していくというところで記載してございます。

続きまして、22ページの鎌田図書館でございます。こちらも区の職員の直営でございます。

運営方針につきましては、①「利用者満足の高い図書館サービスの実施」、②「利用者が安全安心して利用できる図書館づくり」となっております。

①の課題につきましては、こちらも新型コロナによる座席数の減少や間仕切りの設置など、利用者に不便を強いている。目標については、座席数を工夫するほか、整理整頓、館内美化に努め、丁寧なサービスを心がけ、満足度の充足を図る。

②のほうは、課題が、施設の真横には仙川が流れている。区民センター内の地下1階に位置して、常に雨水等が侵入するリスクがある。目標は、施設の状態を細かくチェックし、利用者を危険にさらすことがないよう、雨漏りや吹き込みによる蔵書等の汚損が生じないよう予防する。

その①の実施状況につきましても、こちらは記載のとおりでございます。

②のほうにつきましても、アンケートの調査などを、どちらもアンケート調査を使いながらの記載のとおりという実施状況になってございます。

自己評価のほう、①利用するパソコンの定期的な清掃、書架整理を日頃から行い、アンケートでも居心地に対する満足度向上の一助となっている。また、アンケートのほうでも閲覧席の増加を望む声が多い。感染症に配慮しながら、施設の空いているスペースを有効

活用し、臨時の閲覧席を設け、満足度の維持向上を図ることができた。館内秩序の維持に努め、アンケートでも不適正な利用者への対応に関する満足度が向上している。職員の接遇についても、おおむねよかったけれども、一部クレームにつながる事例があったというところでは減少しているところもあるので、今後は丁寧な接遇を心がけていきたいということです。

②については、職員が館内を定時に随時巡回することにより施設の状態を把握するなどし、早めの対応をしていくことができた。アンケートでも施設や設備に関する満足度が向上できている。巡回は不審者等に対する防犯の効果もあったと考えている。避難訓練を通して、危機管理の意識を職員にも持たせている。安心して図書館に利用者が来館できるような図書館づくりを行っていくということが自己評価で書かれております。

以上でございます。

○会長 両館の館長さんがいらしていますが、何か補足はございますか。

○鎌田図書館長 鎌田図書館のほうは、令和3年度は施設の予防改修といたしまして、区民センター、児童館と共に、施設のほうの改修を実施しました。そのため、令和3年度は仮事務所という形で、鎌田児童館のプレイルームを使って図書館カウンター、御存じかと思うんですけども、あのような形で本の貸出し、返却、予約、そういうものの事務のみの業務形態となりましたので、お伝えしておきます。

○会長 御説明ありがとうございました。私も事前にデータを頂いて、令和3年度の貸出しが約13万1000冊なのに、翌年21万冊を超えているのはなぜなんだろうと、こんなに貸出しが伸びる裏技があるのかと思ってお聞きしようとしたんですが、それは単に場所を移っていた、仮住まいだったんですね。

この両館について何か御質問、御意見がありましたら、お出してください。

○委員 私は、世田谷おはなしネットワークというところに所属してまして、個人的には上北沢図書館でおはなし会をさせていただいています。

上北沢図書館のところに、学校おはなしボランティア講座のことが出ているんですけども、このボランティアの講座は、図書館全館で行っていらっしゃるもので、地域ごとの

担当館が移動して、その地域の方にボランティアの推進をするというか、講習をしているもので、毎年行われているもので、ネットワークからも講師をボランティアでさせていただいているものです。学校おはなしボランティアといっても、学校でおはなし会をできるお母さんばかりがいらっしゃるわけではなく、定年を超えたのでという方もいらっしゃったりして、その講座を受けて、終わっても、なかなかそれを活用できないという方がいらっしゃる中で、上北沢の図書館では、その受けられた方を継続して勉強会をしていらっしゃるというのはとてもいいことだなと思っています。

たしか別の図書館でもそういう講座を受けられた方がグループをつくってボランティアで活動されているところもありますが、そういう活動をそれぞれの館で支えていただけたらいいなと思います。上北沢どうこうということじゃないんですけども、ほかの図書館でもそういう活動があると。

○会長 ありがとうございます。今、委員が言われたのは、この20ページの上ですよ。これは多様な活動等を支援する図書館となっていると同時に、地域のボランティアだとか、地域の区民センター文化祭、そういうところとの連携であって、地域とのつながりも兼ねているんだろうと思いました。それが私、地域図書館ならではの、その地域の特性を生かした働きにつながっていくんだろうと思います。

先ほどどこでしたっけ、維新まつり、世田谷の図書館ですか、ああいうふうなことを地域の図書館が協力して盛り上げていくという、それがやはり中央図書館とは違う地域図書館ならではのよさというところなんだろうと思います。規模が小さくて、先ほど委員も言われるような居場所がないというか、座るところもないようなところもある反面、小回りが利いて、地域といろんな形で結びついていく。それは学校もそうでしょう、商店街もそうでしょう、神社仏閣だとか、地域ならではの存在と結びついていく図書館の在り方を模索しているところなんだろうと思います。そういうところを評価するのは極めて大事なことでだろうと思いますね。

世田谷区全体を見るだけじゃなくて、こうやって地域館一つ一つを見ていくことによって、地域ならではの図書館の働きが見えてくるところにもこの評価の意義はあるように感じました。

ほかにこの最後の2館について、上北沢、鎌田について何か御発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ちょっと急いできたところもありまして、こういう形で地域図書館全体をこの取組みシートに基づいて見ていく、これが今回、この協議会としても初めてでしたので、いろいろと問題点もあろうし、今後の改善点もあろうかとは思いますが。途中でも幾つかそういう御指摘もありました。次回は残った8館についてはほぼ同様の形で取り上げていくことになるんですが、この評価の枠組みというか、評価・検証の在り方について何か気がついたことだとか。

○委員 今回は、初めてこの取組みシートというものを作って、今日は館長の方にもお越しいただいてということだったので、今回この枠組み、繰り返しですけれども、運営の協議会ということで、これをどう使っていくのかなというところがやっぱりちょっと気になっています。今日、私がここに来て確認したかったのは、この中身の体裁がどうだとかというところは、今日、レビューはしたんですけれども、その中で一部、途中で会長からも、この中身云々よりも今後これをどう使っていくかみたいなのところもあったかなと思っていて、ちょっとそこは混同してしまったので、まず一つ一つ整理していきたいんですけれども、中身についてという確認と、これの使い方、両方について確認させてください。大きく3つあるかなと思っていまして、ぜひ各館長の方にも御意見をいただきたいなと思っています。

1点目は、館長が今回取組みシートを作成するに当たって、今後これをどういう形で活用していきたいと思って作られていらっしゃったのか。つまりこれは、運用をどうよくするかというチェックシートになるかなと思いますので、これは各館長がどういう思いを込めてこのチェックシートを作られていって、これをどう使っていきたいのかというのが1点目です。

2点目は、この協議会というか、レビュー、チェックの場で、我々のような委員がそれぞれ指摘するだけではなく、図書館同士の相互チェックというか、相互意見交換というか、そういうものは行ったほうがいいのかどうか。もしくはこの協議会で私が知らないだけで、各館長同士、もう既にそういう意見交換だとか、運営の改善の協議の場というのは別に行われているのであれば、ちょっとそれも教えていただきたいというのが2点目です。

3点目は、この取組みシートの自己評価を書くに当たり、自分の評価だけではなくて、事務局だとか、中央図書館の要望というのもやっぱり書くべきなのかどうか。あくまで自

己評価だけであって、その自分たちがやったか、やらないかだけじゃなくて、そこで気づいたものを要望としてこの場に出したいなと思って書かれていたのか、今回そういう項目がないので、それは載せていなかったのか、ちょっとそういう思いも各館長から伺えればなと思った次第です。

以上です。

○会長 ありがとうございます。どうでしょう、今3点お尋ねがありましたけれども、物によっては事務局が答えたほうがいいかもしれないし、最初の取組みシートの今後の活用、そこらあたりはぜひどなたか地域館の館長さんでうちの館はこう使うつもりだみたいなことがあれば、どなたでも結構ですが、手を挙げていただければ。せっかくそういうお尋ねがあって、うちとしてはこうやりたいというのをぜひ説明してください。

○世田谷図書館長 シートは、紙面の都合もあったものですから、実は私は駄文をつなげて、本来ですと、この倍以上の文字を書いてしまいました。ただ、やはりこうやって検証していただくという場で分かりやすくという作業をしている中で、やはり自分自身の反省するところ、目標の明確化というのは実は明確ではなかったということが自覚できましたし、それから、こうやって御審議いただいたことで、ここで世田谷図書館はコミットメントをしたんだという覚悟を決めました。

○会長 今後の意気込みというふうに理解してよろしいんだろうと思いますが……。

○世田谷図書館長 結構です。

○会長 ぜひ期待したいと、ありがとうございます。

ほかの地域館の館長さん方、いかがですか。この取組みシートの活用、あるいは今日こうやって利用者の方と直接いろいろと議論したことをどう今後に活かしていくかという点なんですが、どなたか。

○桜丘図書館長 今回、このシートをある意味作成させていただいたことによって、先ほど御指摘いただいた実は矛盾点とか、振り返りができたことはすごくよかったと思っています。

ます。一応立てた目標というか、今年度もこの目標でやっておりますので、改めて年度も後半に来たということで、またかぶとの緒を締め直してという感じで目標達成できるように頑張りたいなと思った次第です。

○会長 これも同じように意気込みというかな、抱負を語っていただきました。ぜひ御活用いただきたいと思います。

それから、この取組みシートは、結局この協議会で2時間で議論するために、かなり私が無理を言って簡略化しているんです。本当はそれぞれの図書館でもっと多くの項目で当然自己評価をされているはずですが、ただ、その細かいのをここに出されると、とても2時間で、申し訳ないけれども、普通の利用者の方が議論するのは難しいということで、大事な点を絞って、A3サイズ1枚にまとめようという指示を私のほうでして、単純化させていただきました。だから、もっと多くのものを各館長さん方は持っているはずですので、それをぜひ今後に生かしていただきたい。それが本来のPDCAのサイクルのほうです。

それから、先ほど委員からほかにも2点言われました。協議会だけでなく、相互のそういうレビューの場というのは、これは世田谷区としては絶対設けているはずで、地域図書館の館長さんに集まっていただく場があるんだろうと思います。そこらあたり、事務局、補足してください。

○事務局 初めに、月1回、地域図書館、それから中央図書館の係長級を集めて、いわゆる館長会という会議を開いております。この館長会は、いろいろな情報共有や、もしくは議論の場として行っているところなんですけど、一応中央図書館を頂点として、世田谷区立図書館の中では意思決定機関として重要な位置を示しております。さらに、その下というか、並列に資料収集部会であるとか、児童図書担当者会であるとか、音響資料の担当者会とか、様々な部会なり検討会をその下に備えておいて、それぞれの課題はそこで話合いをして、最終的には館長会に上げて決めていくという流れを取っております。いろんな部会があるので、ちょっと今全部は言えないぐらいなんですけど、そうやって地域館を超えて、館ごとの悩みを話したりとか、課題を話したりとか、また解決の事例を示したりとかというのは、そういった部会なり、館長会を通じて行っております。

○会長 ありがとうございます。先ほど委員が言われた、例えば地域館から中央図書館に対する要望とか、意見とか、そういったものもその場で、場合によっては地域館の館長さんから出てきているわけですね。そういう場合は、別途、当然設けられていると理解していただいてよろしいかと思えます。

今の点に関して、委員、よろしいですか。

○委員 いま一度確認なんですけれども、そうすると、今回こういう取組みシートを新たに作りましたと。これを来年度に向けて設計されるんだろうなと思うんですけれども、月1回のそういう場において、これを中間レビューとしてやりながら、年に1回、こういう協議会の場で、我々のような区民とか、学識経験者も交えて、これを外部のレビューも行う場とするだとか、この使い方、活用の仕方というのが、内部の運営の場とこういう場と、どう組み合わせてやっていくのかなというところが、今後の設計の課題なんですか、そういうふうに解釈しましたが、よろしいでしょうか。

○会長 基本的に私は委員の理解というか、解釈で正しいと思っていますが、いかがですか。

○事務局 おっしゃるとおりで、この運営協議会もやっと2年目になって、前回は全体の評価、今回は各館の評価をさせていただいて、この評価を図書館の中でどうやって生かすかということが多分課題だと思うんですが、今年度に限って言うと、図書館ビジョンの策定委員会のほうにこちらから出てきた意見を流し込めたというのが、PDCAのサイクルにはまったのかなと思います。策定委員会が来年度以降なくなってしまいますので、今後、運営協議会で話し合っていたことや、各地域館が自分で自己評価をしたことについての還元というか、利活用については、一応課題として検討させていただきたいと思えます。

○会長 そういうふうな課題とか、改善点はまだまだあるんですね。でも、こういうことを世田谷区として初めてやるようになりましたので、今後、軌道に乗るように温かい目で見ただけであればと思います。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。勉強になります。でも、8館はちょっと1日が多いかと、4館ぐらいにすると、もう少し一つ一つを一生懸命見られたかなと思います。

それから、運営体制が、一部業務委託とか、直営とか、そういうのがどういうふうな図書館によっての特徴が出ているのかなというのを見たいなと思いましたがけれども、そういうところはなかなか見えてこないのかなとか、今後どういうふうな方向性になっていくのかなとか、そんなことを考えながら今日は見させていただきました。

○会長 ありがとうございます。まとめて最後、事務局のほうから補足説明をしてください。

続いて、委員、どうぞ。

○委員 評価とか、検証とは直接関係ないお話になってしまうんですけども、私、中学校の校長なので、中学生にとって図書館はどういった場所なのかなと思ったときに、小学生であれば親に連れられてということもあるけれども、中学生になるとやっぱり自分自身の意思でそこに行くのがほとんどなので、かといって勉強しに行くというだけじゃなくて、結構今子どもたちが求めているのは居場所だと思うんです。学校は嫌い、行きたくない、あるいは家庭にも例えば何かやっぱりいたくない理由があったときの一つの居場所として魅力あるということが、中学生の多くじゃないけれども、求められている1つの要素かなと思うのと、ここ数年、中学校では職場体験がやっぱりできなかつたんです。今年がようやく再開する初年度ぐらいなんですね。職場体験は3日間だけなんです。図書館で職場体験に行く子は図書館に行きたいんです。図書館で職場体験をしたいんです。それが3日間で終わるんじゃなくて、例えばその後も図書館のボランティア、大人じゃない中学生ができる読み聞かせボランティアとか、何かイベントの企画とか、運営に携われるボランティアとか、中学生の何人かが図書館で輝ける、そういう場になっていくと、地域とつながる図書館としての魅力は増すんじゃないかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。大変すばらしい提案をしていただいたんですが、今のお2人の意見を受けて、事務局からどうぞ。

○事務局 今、区民意見募集がちょうど終わったところの第3次図書館ビジョンについてですが、その記述の中に、1つは、中高生世代の居場所になれる図書館を目指しますということを書かせていただいています。これは世代と書いてあるのは、中高生ですから、必ずしも高校生じゃない世代の方もいるので、中高生世代と書かせていただいておりますけれども、やはりこれまでの本を静かに読む図書館から、そういった中高生世代がくつろげるというか、居場所となる、いわゆる教育でいうところのサードプレイスとか、場合によってはフォースプレイス、家庭、学校以外の場所としての居心地の場所を目指すというふうにビジョンに書かせていただいたので、今、委員からの御意見、その前の委員からの御意見も含めて、改めて身が引き締まる思いでビジョンを推進していきたいと思っております。

また、今は子ども読書リーダー養成というのを夏休みにやっております、そこを卒業したというか、講習を受けていた子どもたちが、地域館で読み聞かせをしたりする機会もありますので、こういった取組も一層推進していけたらと思っております。

いろんな意味で図書館、今までの従来型の図書館から今変質しようと、変わろうとしているところなので、こういった具体的な区民の利用者の方の声を直接いただいて、その方向性をきちんと間違っていないかチェックをしながら、今後の計画や実施に向けて進んでいきたいと思っております。ぜひこの運営協議会、とても大切な場と思っておりますので、会長もおっしゃっていただいたとおり、地域館の館長も来ておりますし、区民の方もいらっしゃるということで、オープンな場でこういった議論ができると大変ありがたいと思っております。

○会長 ありがとうございます。先ほど委員が言われたように、本来はこれは一度に4館ずつぐらいやれば、もっと議論が深まって、皆さんの理解も深まったのかもしれませんが。今回は初めての試みで、全部で16館ある図書館を取り上げるということで、私のほうで無理やり8館ずつにしようと提案させていただきました。これは、委員の皆さんも様子がある程度分かって、もう少し軌道に乗れば、年4回ですから、ちょうど4館ずつ地域館を取り上げていけば、議論しやすく、分かりやすかったかもしれません。それは今後の検討課題ということで引き受けさせてください。

それから、先ほど委員のほうからいろんな提案をいただきました。今、事務局も言われたように、図書館は確かに第3の場所、サードプレイスなんですよ。自宅が第1の場所、

職場とか学校が第2の場所、自宅でも職場でも学校でもない居場所がサードプレイスなんです。こういうサードプレイスにしようという試みは、実は世界的に起きているんです。もう海外の図書館でも、図書館というのがサードプレイスになる。だから、よく言われる不登校の子どもが行き場がないときに、図書館に行って勉強する。図書館にどうぞ来てください、学校に行けなくても図書館ならいつでも歓迎しますよというようなことで子どもたちを受け入れている地域もございます。そういう意味では、図書館の活用の可能性は、以前の読書の場というよりもはるかに広がってきたんです。そういうことが今回の評価を通じて少し浮き彫りになったのではないかと思います。

それから、先ほど委員が職場体験が3日間だけだと、その後といったときに、これも世田谷ではやっていないんですか、それなりに図書館に興味を持って、関心を持ってくれた子どもに対して、子ども司書という称号を与えるというのは、これは全国的にやっていますね、子ども司書というのを。子ども司書になると、学校図書館でも活躍できるし、場合によっては、地域の図書館でボランティア活動をやって、書架整理をしたりとかというようなこともあるんです。そういうふうな制度も、これは全国的に子ども司書という名称で普及し始めておりますので、そんなこともぜひ世田谷区でも御検討いただければと思います。

そういう形でいろんな図書館の在り方を模索し、それは中央図書館だけではなくて、地域図書館、そしてさらには図書館の利用者や、今まで図書館のことにあまり関心のなかった区民の皆さんも、図書館に関心を持ち、足を運んでもらえるようになると思います。そういうふうな場や機会をつくるためにこの図書館運営協議会が機能していけば、世田谷区がこの協議会を新たに設置した意義は十分あるんだらうと思います。ぜひそこらあたりの趣旨を、そしてその可能性みたいなものを理解していただきまして、引き続きこの図書館運営協議会に御尽力いただきたいと思います。

それを最後に私のほうからお願いをしまして、今日ちょっと時間が厳しくなっちゃったかもしれませんが、今日の協議会を終わらせていただきたいと思います。

最後に、事務連絡で、次回、今年度第3回の協議会の日程についてお知らせください。

〔日程調整〕

○会長 ということですので、また日程について事務局から問合せがあると思いますので、御回答のほうをよろしく願いいたします。

それでは、令和5年度第2回の図書館運営協議会をこれにて閉会させていただきます。

皆さん、遅くまでありがとうございました。

午後 8 時33分閉会